

番号	遺跡名	遺跡種別	所在地	系統／器種（タタキ）／焼成／他	推定時期（共伴土器）	備考	文献	福岡市報告	時期の整理
1	元岡・桑原 46 次 B-1 区 包含層	集落	福岡県福岡市西区 (旧志摩郡)	楽浪／簡環体部上半～口縁部片／瓦質／摩滅著しいが白色泥質胎土、外表面黒灰色	谷部包含層だが遺物僅少、42次 SD01 の下流にあたり後期後半～終末期か？	本報告 Fig. 22-15	久住猛雄 2007	福岡市第 964 集	後期後半～ 終末期か？
2	今宿五郎江 11 次 旧河道上包含層	集落	福岡県福岡市西区 (旧志摩郡)	楽浪／鉢（楕形鉢）4 点以上／瓦質／白色泥質胎土、一部外表面黒灰色、一部暗文風ミガキ	水路遺構上層出土、後期後半～終末期（I 期以降少ない）	未報告（整理中）	未報告（整理中）		後期後半～ IA 期
3	コノリ 3 次 包含層	集落	福岡県福岡市西区 (旧早良郡)	楽浪／壺（壺形鉢）／瓦質／白色泥質胎土、内面当貝痕跡	包含層は 5 世紀以降を除くと弥生後期後半～IA 期が主体	報文 Fig. 15-114、 寺井誠氏教示	池田祐司 2002、 寺井誠 2006	福岡市第 728 集	後期後半
4	比恵 18 次 P-164	集落	福岡市博多区	楽浪／壺形鉢小片（縄縦）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土、内面当貝痕跡	詳細不明だが周囲は後期後半～終末の住居多數	報文 Fig. 87-32、 寺井誠氏教示	吉留秀敏 1990、 寺井誠 2006	福岡市第 227 集	後期後半～ 終末期か？
5	比恵 50 次 SP2028	集落	福岡市博多区	楽浪／壺形鉢小片（縄縦）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土、内面当貝痕跡	6 世紀後半～7 世紀前半の掘立柱建物 S802 ピットに埋入	報告なし、 鶴仁盛氏確認	下村智 1996、 寺井誠 2006	福岡市第 451 集	？（後期後半？）
6	比恵 51 次 SP3102	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（縫？）脚部片（縄縦）／瓦質／泥質胎土、内面当貝痕跡	同じ掘立柱建物の他の柱穴（SP3234）に壺と鉢 2 点あり、壺は IA 期でもよいが鉢は浅い器形・丸底で新しく IB 期に入る	報文 Fig. 7-6、報告は 「三輪系」とするが内 外のタタキ痕跡と胎 土から樂浪系	白井克也 1996	福岡市第 452 集	IB 期 (終末期新相 =古墳早期)
7	比恵 91 次 包含層中層	集落	福岡市博多区	楽浪／大型鉢（盆）底部片／瓦質／白色泥質胎土、摩滅顯著で器表面不明	弥生中期～後期前半と IB～II A 期の土器群、朝鮮系と並ぶおそれなく（IB～II A 期、他に忠清道系大型壺あり）	報文 Fig. 29-235	山崎龍雄 2006a	福岡市第 898 集	古墳初頭 (II A 期)
8	比恵 91 次 SC13	集落	福岡市博多区	楽浪／簡环底部片／瓦質／白色泥質胎土、摩滅顯著で器表面不明	IB 期主体・II A 期付む器群（外来系多數）	報文 Fig. 29-234	山崎龍雄 2006a	福岡市第 898 集	古墳初頭 (II A 期)
9	那珂 21 次 第 48 号祭祀土壙	墳墓	福岡市博多区	楽浪／壺形鉢小片 2（縄縦）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土	祭祀土壙は弥生墳丘墓の周溝、祭祀土器は中末期主体だが上層は後期前半まで含む	報文 Fig. 232-73～74	山口龍治 1992	福岡市第 291 集	中期末～後期前半
10	那珂 21 次 第 49 号祭祀土壙	墳墓	福岡市博多区	楽浪／壺形鉢小片（縄縦）／瓦質／薄い器壁、白色泥質胎土	報文 Fig. 239-32	山口龍治 1992	福岡市第 291 集	中期末～後期前半	
11	那珂 73 次 SD02	集落	福岡市博多区	楽浪？／壺（繩または盆？）脚部下部小片（縄縦）／瓦質／器壁厚い、白色泥質胎土、右縁り縄縦文、内面は摩滅し器表面不明	SD02 は 7 世紀の遺構（混入）、SD02 に切らされる住居跡は IB～II B 期、楽浪土器は IB～II A 期の可能性	報告は「三輪」とし たが白色泥質で楽浪 系か、 報文 Fig. 47-364、 Ph. 87	久住猛雄 2002	福岡市第 713 集	IB～II A 期 (古墳初頭?)
12	雀居 4 次 SD03 上層	集落	福岡市博多区	楽浪／壺（長頸壺？）／瓦質／ロクロ目（回転ナメ）縦顯著、薄い器壁で精巧な作り、焼成堅密	SD03 上層は IA 期が主体（IB 期以降も含む）	報文 Fig. 131-1233	下村智 1996、 寺井誠 2006	福岡市第 406 集	IA 期前後 (終末期)
13	高畠 19 次 SD030	集落	福岡市博多区	模倣品（楽浪系の模倣か）／筒环の模倣／歌賀（弥生土器と同じ焼成）／円筒状器形・平底、外面ハケメ	後期後半新相～II A 期まで	報文 Fig. 12-28、同図 25 はより粗雑な模倣 品の可能性	吉武学 2005、 寺井誠 2006	福岡市第 799 集	後期後半～ 終末期
14	下月隈 C 7 次 SD818 5-2 区（南側）	集落	福岡市博多区	楽浪／簡环底部片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	5-2 区は IA 期～II A 期、IB 期前後か	報文 Fig. 72-118	山崎龍雄 2006b	福岡市第 881 集	古墳初頭？
15	下月隈 C 4 次 SD116	集落	福岡市博多区	楽浪／鉢（楕形）体部～口縁部／瓦質／回転ヨコナテ瓶顯著、泥質胎土	IB 期か？（IA～II A 期）	報文 PL. 82-545	瀧本正志 2004、 寺井誠 2006	福岡市第 750 集	古墳初頭？
16	下月隈 C 8 次 SD818 9 区上層	集落	福岡市博多区	楽浪／簡环口縁部小片／瓦質／泥質胎土	上層は IB～II A 期	報文 Fig. 70-111	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	古墳初頭
17	下月隈 C 8 次 SD1210 最下層			楽浪／簡环底部片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	多くの遺物は IA 期	報文 Fig. 75-154	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	IA 期か？ (後期後半～ 終末期)
18	下月隈 C 8 次 SD1278 3 区			楽浪／簡环底部～体部下半片／瓦質／内表面黒色、泥質胎土、静止糸切痕	後期後半～IA 期か	報文 Fig. 93-302	山崎龍雄 2007	福岡市第 932 集	後期後半～終末期
19	博多 17 次 SB169 (堅穴住居)	集落？	福岡市博多区	楽浪／長頸壺（口縁部～頸部の同一個体計 2 片）／瓦質／薄い器壁で構製、白色泥質 胎土、比較的小型品であろう	SB169 は 7 世紀前半～中頃（九州須恵器 年四期）の住居址、SB169 が切る方形周溝 基 SK200 の周溝は III A 期古墳。以上はい ずれも時期が合致しないが、接している SD161（道路遺構側溝）は IB～II C 期でこ れが時期をしめすか（IB～II A 期？）	報文 Fig. 17-2・3 (同 一個体)	柳沢・杉山 1985、 寺井誠 2006	福岡市第 118 集	古墳初頭？

表1：福岡市内における楽浪土器出土一覧表

これについては、関連して次に簡単な考察を加えたい。

2. 博多湾岸における楽浪土器の出土動向について

表1には各報告において楽浪土器と認識していないものも含むが、全て実見して確認している。なお表1は、寺井誠が検討した集成表（寺井2006「福岡平野の楽浪系土器」「下月隈C遺跡VI」福岡市埋蔵文化財調査報告書第881集）に、さらに補遺集成したものである。楽浪土器の個体認識については寺井2006によるが、表1の1・2・11・16～18はさらに増えたものである。このうち2の今宿五郎江11次例は整理中のものであり、個体数などは変動がありうる。しかし、大規模調査により一度に弥生後期～古墳前期の集落の大部分を調査したにもかかわらず、今のところ確実なものは鉢（椀）類のみのようである（本市埋蔵文化財第2課杉山富雄氏・加藤隆也氏御教示）。元岡46次例は簡環であるが、これらのように簡環や鉢（椀）類のような食器（椀環類）のみが出土する例が散見される（表1-1・2・14～18）。14～18の下月隈C遺跡も大規模調査により弥生後期～古墳前期の集落の大半部分を発掘しているが、出土した楽浪土器はいずれも椀環類のみである。博多（19）や雀居（12）のように長頸壺のみの出土の場合は評価に苦しむが、壹岐の原の辻や13の高畠例のように簡環が模倣対象になっていることからすれば（寺井誠2006前掲）、楽浪土器の食器（椀環類）が当時の一部階層（首長層か）の嗜好品であったと考えることができる（寺井誠2006「古墳出現前後における朝鮮半島系土器の故地とその流入背景」「日本考古学協会第72回総会研究発表要旨」）。一方、4～10の比恵・那珂では楽浪土器の器種が多様で出土の時期幅も広い。量的にはやや劣るが、糸島の諸拠点遺跡（三雲、深江井牟田、御床松原）や原の辻の様相に準じ、対外交渉の拠点としてよい。椀環類のみを出土する遺跡は、首長層の嗜好により、こうした対外交渉拠点から二次的に楽浪土器を入手したと考えられよう。